



地場工務店のための住宅の換気と雨仕舞い

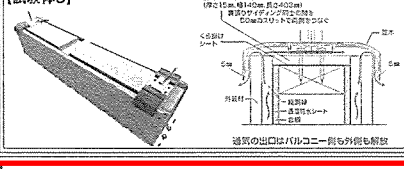
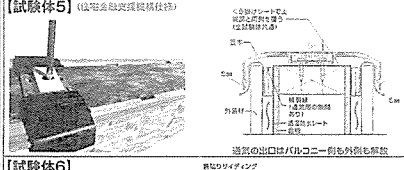
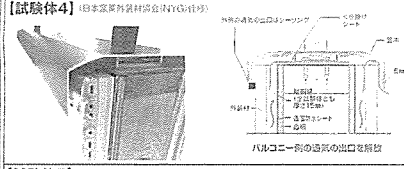
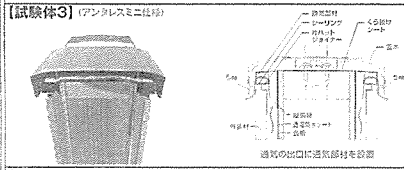
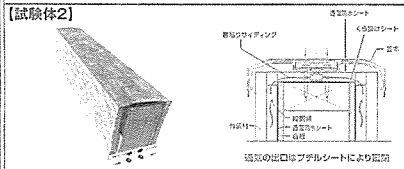
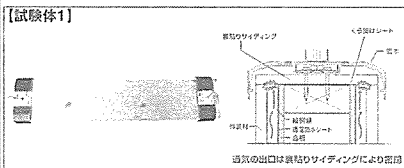
第二回

神戸陸史 (株式会社ハウゼコ)

今回は少しいの問題(ルーフバルコニー)に取り組み始めた経緯をお話させていただきます。

私は、ハウスメーカーに就職し、最初の赴任地が鹿児島県の販社で、戸建ての営業として配属されました。毎日飛び込み100件、TEL探100件というように、とにかく何でも1日100件というのがノルマでした。2カ月半の本社と工場の研修を経て6月中旬に鹿児島県に赴任し自転車飛び込みを始めました。毎日火山灰と大粒の雨に降られながら、文字通り泥臭く日夜営業にいそいそしていました。私が飛び込んでいた地域は鹿児島県の下町で古い家が多く、数多くの劣化事例を見かけました。蟻害・雨漏り・結露等々その様な被害が出ている家を狙い撃ちで飛び込んでいました。その中にルーフバルコニーやキャンチバルコニー・笠木の劣化した住宅が多いことに気づきました。その様な家に飛び込むと、奥様が「バルコニーの下から雨漏りするのよねえ」等お話をされていました。その後展示場営業をはじめましたが、プランニング時にお客様からのルーフバルコニーの要望が多く、しかし工務からはリスクが高いということで嫌がられました。強い日射や寒暖差・台風等で、漏水リスクや結露リスクが高いからです。鹿児島県は南国なので温かいイメージがありますが、実は結構寒いので日中と夜の寒暖差が大きくなるのです。少し大きめのルーフバルコニーになると、工務はステンレス防水にしたがるのですが、コストが高く、少しでも安く上げたい営業との戦いがありました。このような原体験がその後のルーフバルコニーの研究に取り組み始めたきっかけになっています。

話を戻しまして、前回は手すり壁上部の通気層が開放系と閉鎖系に分かれ、因果関係が特定しにくい閉鎖系の方が多くいるところまで書きました。



もうひとつ、この閉鎖系の納まりの問題が顕在化しない要因として、保険を使う場合、結露でも雨漏り申請をするという問題があります。結露は、前回もお話したとおり因果関係が特定しにくく、雨漏りもよく似た現象が出ます。また、常時発生している場合と限られた時間や時期にしか発生しない場合があります。保険機関としても、それが果たして雨漏りか結露か判定するために多くの労力を割くことも実質不可能であり、そのまま保険金を下ろしてしまっているケースもある様です。この様な状況が、結露被害を顕在化させない一因となっています。

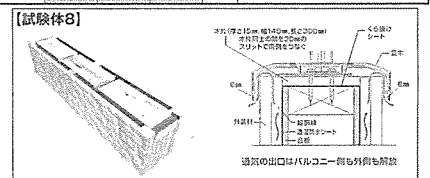
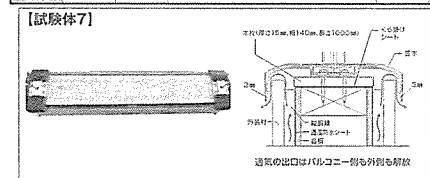
それでは具体的に納まりを見ていきましょう。地域差はありますが、最も多い納まりの1つが、閉鎖系の試験体①です。手すり壁上部の通気層に窓枠サイディングを裏貼りして、そのすき間をシーリングを施し通気層を密閉する納まりです。この納まりだと、通気層を通して手すり壁上部に到達した熱気は行き場を失い結露事故の原因となります。

同じく、閉鎖系の試験体②は、腰壁天端をサイディング等で養生し、約6尺ピッチで通気経路を確保し、その上から防水シートで覆っています。こちらは、①と違って通気層最上端で通気経路を確保しているのですが、通気層の要求通気量は全く達成できていません。また、通気経路の出口は手すり壁内側のサイディング下端と水切りの間から抜く設計ですが、熱気は重力で上昇はしても下降はしません。ゆえに、熱気だまりができる要因になってしまいます。(つづく)

(毎月25日号に掲載します)

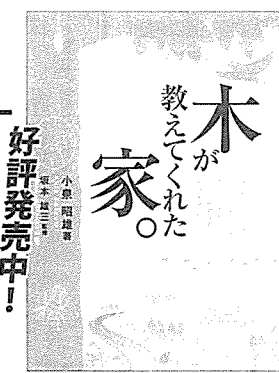
神戸陸史 (カンベ・ムツヒト) 平成3年ハウスメーカーに就職し、鹿児島県・大阪で勤務後、平成8年ハウゼコ入社、平成19年代表取締役社長、47歳。

試験体	通気出口仕様		仕様	通気出口幅	通気層厚	漏水量(90mm)		通気量	結果
	外側	内側				外側	合計		
①	密閉	密閉	裏貼サイディングで天端を覆う。	5mm	縦	0	0	0	× 漏水はないが、通気出口を密閉しているため、結露の可能性が大きい。
②	密閉	密閉	裏貼サイディングで天端を覆い、その上に防水シートを覆う。	5mm	縦	0	0	0	× 漏水はないが、通気出口を密閉しているため、結露の可能性が大きい。
③	換気部材	換気部材	通気出口に笠木下換気部材(アンダースペース)を取付ける。	5mm	縦	0	0	0	○ 開放系の中で漏水量が最も少なかった。
④	シール	開放	日本工業外装材協会(NVIC)「高気密サイディングと標準施工第2版」に準拠。	5mm	縦	18	0	18	△ バルコニー側の通気出口から水が入り、手すり壁上部を回り外の通気層へも漏水。
⑤	開放	開放	横断線を使用。住宅金融支援機構の「フラット35」に対応する仕様書に準拠。	5mm	横	18	0	18	○ 漏水量が多い。
⑥	開放	開放	住宅会社が採用している仕様を参考。裏貼サイディングで天端を覆い、両側をスリットでつなぐ。	5mm	縦	12	0	12	△ 漏水量が多い。
⑦	開放	開放	住宅会社が採用している仕様を参考。木下地で天端を覆う。両側をつなぐスリットなし。	3mm	縦	15	0	15	○ 通気出口の幅が3mmと他の試験体より狭いが漏水量は試験体⑧について多くなった。
⑧	開放	開放	住宅会社が採用している仕様を参考。木下地で天端を覆う。両側をスリットでつなぐ。	6mm	縦	15	0	15	○ 漏水量が最も多くなった。



既刊 木が教えてくれた家。

小泉昭雄(断熱職人界代表)著



好評発売中!

本書は、住宅の断熱施工という、住宅業界が価値を認めてこなかった地味な仕事を「環境ビジネス」という21世紀に相応しい産業に立派に仕立てた「ある男」の物語です。
(「監修のこぼれ」より)

A6版 192頁
定価(本体1,500円+税)
発行: 鶴書院

お申込みは FAXで
03-3823-2566

日本住宅新聞社
管理部 書籍販売担当 行

限 数	
御社名	
ご氏名	
御住所	
TEL	
FAX	